

広
報

はちまんたい

hachimantai

3

Mar.2011

No.124

お知らせ版

東北地方太平洋沖地震

3月11日金曜日、午後2時46分頃、三陸沖で最大震度7の地震が発生した。マグニチュード9.0。観測史上世界最大級の、圧倒的なエネルギーが牙をむいた。沿岸では、最大10mを超える津波が押し寄せた。

家々を瓦礫の山に変え、1万人を超える命を飲み込んだ。刻々と伝えられる被害状況。それはまさに地獄絵図だ。

地震発生直後から、

東北全域で停電となった。

電話もつながらない。

人々は、寒さと不安の夜を送った。

商店の棚から食料品が姿を消し、ガソリンスタンドには長蛇の列。

市は、発生直後に災害警戒本部を設置。午後3時15分に災害対策本部へ切り替えた。自主避難した人のため大更公民館に避難所を開設するなど、徹夜で対応に当たった。

市内の被害は少ない。津波で甚大な被害を被った沿岸の人々を救え。

3月15日には、姉妹都市の宮古市に14トトラック1台分の救援物資を緊急輸送。

他の沿岸自治体に対しても、生活必需品の提供や、人的支援を行った。

失った尊い命は戻らない。復興には、途方もない月日がかかるだろう。

だが、亡くなった人たちの犠牲を、無駄にしてはならない。

今こそ手を取り合い、前を向いて歩いていこう。明るい未来を信じて。